

がん薬物治療の未来を変える

# 東京薬科大学で がん臨床研究を学ぼう！

がん専門薬剤師って知っていますか？

病院で働く薬剤師の中には「がん専門薬剤師」という資格を持った薬剤師がいます。

「がん専門薬剤師」はたくさんの疾患がある中でも、特に“がん”の薬物療法等について高度な知識や技術、臨床経験を備えた薬剤師であることが認められた薬剤師だけが持てる資格です。臨床現場でがんの治療計画や副作用の管理、患者さんへのサポートまで、チーム医療の中でとても大切な役割を担っています。



東薬には、**がんの専門資格を持った専任教員が  
日本の大学の中で一番多く在籍\***しています。

\*2025年4月17日現在

がん治療の分野でも国内有数の病院との連携を行っていることに加え、  
臨床経験が豊富な先生もたくさんいて、がん臨床研究を学ぶ最適な環境！



01

**がんの専門資格を  
持った専任教員数  
日本一\***

臨床経験が豊富な教員が  
主体となって、東薬にし  
かできない臨床教育を実  
施しています。

\*2025年4月17日現在

02

**国内トップレベルの  
病院との連携**

がん治療の分野でも国内  
有数の病院との連携で、  
最先端の臨床研究に触れ  
ることができます。

03

**臨床研究を行う  
研究室が豊富**

様々な角度から臨床研究  
を行っているため、自分  
に合った研究室選びが叶  
うのも東薬の魅力です。



**東京薬科大学**

HP



LINE



X



Instagram



# 東薬で学んだ“がん臨床研究”

## がん専門病院での貴重な経験

私は、国立がん研究センター中央病院で外部研究を行いました。これは卒論研究に加えて、実際の医療現場を経験できる貴重な機会でした。緩和ケア病棟の医師の外来や病棟での診察に同行し、カンファレンスにも参加しました。痛み止めの



使い方や、終末期を迎える患者さんへの寄り添い方など、教科書だけでは学べない多くのことを経験することができました。がん医療や臨床研究に興味のある方には、ぜひおすすめです。

西山 日菜さん（6年）  
横浜緑ヶ丘高等学校 出身

## 大学生時代の病院カルテ調査研究

学生時代は論文調査研究を行いました。先人達の論文を読み、自分のテーマに対しての現状と未だ不明な点をまとめました。そして示唆されている事を明らかにするため、がん研有明病院で診療録（カルテ）調査を行い、その結果を学会にてポスター発表しました。現在は大学での研究を活かし、地域がん診療連携拠点病院に勤務しています。薬剤師としてのセン



阿部 琉聖さん（2024年卒）  
東京慈恵会医科大学附属病院 勤務  
東京都立翔陽高等学校 出身

## 教員メッセージ

### がん臨床研究で未来を創ろう

臨床評価学教室  
平出 誠 講師

（がん専門薬剤師・がん指導薬剤師）

私は、がん専門病院での臨床経験を活かし、がん治療や副作用対策に関する研究を行っています。現在は「腫瘍循環器」というがんと心臓の関連性に着目した研究や、企業と連携した医療アプリケーションの開発にも携わっています。東京薬科大学では、国内トップレベルのがん治療を行う大学病院やがん専門病院と連携して研究することも魅力の一つです。がんの最先端を学ぶことができる環境で、問題解決能力のある薬剤師の育成に尽力したいと考えています。

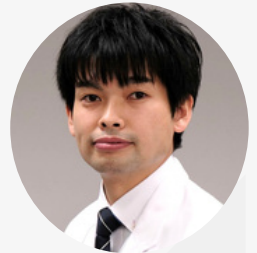


### 超高齢社会日本のがん治療を支える

薬学実務実習教育センター  
市村 丈典 講師

（がん専門薬剤師）

抗がん剤の進歩により、がんは不治の病ではなくなってきました。しかし高齢な患者さんには、むやみに抗がん剤を投与できません。治療効果と副作用のバランスが難しいためです。私たちは高齢患者さんの脆弱性（もろさ）を正確に評価し、個々の状況に合った治療選択に関する臨床研究を行っています。薬剤師は、患者さんに寄り添う医療人であり科学者です。みなさんも私たちと共に、患者さんのがん治療を支える道を歩んでみませんか？



## 未来のがん治療を変える研究をしよう！

医療機関で、がん関連業務に従事する多くの薬剤師が会員となっている学会では、複数のがん専門資格が整備されており、今やがん薬物治療の患者支援には欠かせない存在となっています。またがん領域は、新薬開発の宝庫であると同時に、副作用や高額な医療費など臨床課題は山積しており、課題解決につながる質の高い臨床研究のニーズは年々高まっています。

本学にはがん専門資格を有する多数の教員が在籍しています。彼らのがん関連の業務経験を持つだけでなく、豊富な臨床研究の実績を有しており、抗がん薬治療や副作用に対する治療を大きく変える研究を実施した経験があります。将来、病院などに勤務し患者さんの役に立つためのがん臨床研究に携わりたい方は、ぜひ本学にお越しください。皆さんと在学中のみならず、就職後も含めて生涯、一緒に研究する仲間になれることを心より楽しみにしています。



臨床薬学研究センター長  
臨床薬理学教室  
鈴木 賢一 教授  
（がん指導薬剤師）